

総務文教分科会委員長報告

(H 2 7 . 9 . 3 0)

総務文教分科会に付託されました、平成26年度一般会計、土地取得事業特別会計、曾我部山林事業特別会計及び各財産区特別会計の決算認定について、審査の経過概要と、その結果を報告いたします。

本分科会は、去る9月24日、25日、28日、29日の4日間にわたり、各担当部課長等の出席を求め、書類審査を行い、予算執行が議決どおり適切かつ効率的に行われたか、また、限られた財源の中で、市民が期待する、行政効果が上げられたか等に主眼をおき、決算書及び主要施策報告書等、関係書類をもとに、監査委員の決算審査意見書をも十分参考にして、現地視察も実施する中で、慎重に審査を行いました。

また、あらかじめ選定した4つの事業については、事業の目的、手法、成果、課題・方向性等を主眼に事務事業評価を行いました。

平成26年度一般会計予算は、地方財政を取り巻く諸情勢が年々厳しさを増す中で、第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～の具現化に向けた着実な前進をめざし、「安全・安心 笑顔と絆のしあわせ実感都市」- 夢を育み 未来につなぐ にぎわい交流のまち - をスローガンとして、対前年度比6.1%の増額予算として編成されたものであります。

決算審査の結果、歳入面では、市税につきましては、新增築家屋の登録増加や、四輪乗用車の課税台数が増加したことなどにより、固定資産税や軽自動車税、都市計画税が若干、増額となりましたが、一方では、個人所得の伸び悩みに伴う市民税の減額、及び喫煙者数の減少による市たばこ税の減額がみられました。

市税全体としては、対前年度比0.1%の減額となり、ついに100億円を割り込むという、非常に厳しい状況となっています。しかし、それぞれの事業における特定財源の確保や、滞納整理の取り組みなど、できる限りの収入確保に努められました。

また、歳出面でも、様々な課題が山積する中においても、計画的に市民福祉の向上に向けた事務事業執行に努められたところです。

その結果、実質収支は3億7千万円を超える黒字となり、財政厳しい中においても、健全財政を維持されたことは評価できるものがあります。

今後も、事業の取捨選択とともに、あらゆる方面から財源確保に向けての努力を願い、財政健全化を望むものであります。

次に、歳出面での具体的な執行状況について、平成26年度一般会計決算の本分科会所管分歳出は、議会費、総務費、民生費、土木費、消防費、教育費に及んでおります。

その主な内容は、

- ・ 社会保障・税番号制度等に対応するための、基幹システムの刷新
 - ・ 市民の重要な生活交通の維持確保のための、コミュニティバス及びふるさとバス等の運行、
 - ・ 東部文化センター大規模改修工事、及び各文化センター・児童館等の維持修繕、
 - ・ JR千代川駅東側広場整備のための土地購入、及び整備工事、
 - ・ 地域の安全を守るための消防団及び自主防災組織活動の支援事業、
 - ・ 耐震化及び老朽化した施設を小中一貫校として整備するための、川東小学校・高田中学校の改築工事、
- 等々でありました。

採決に先立ち、大規模スポーツ施設関連事業経費について、事業そのものに反対する立場からの反対討論、各費目を総合的に審査する中で、概ね良好に執行されていたとする賛成討論がありました。採決の結果は、賛成多数をもって認定すべきものと決定しました。

なお、決算認定にあたり、亀岡の未来を担う子どもたちのために、関連教育予算の更なる充実を望むものであります。

次に、土地取得事業特別会計決算は、一般会計決算と同様の理由での反対討論がありました。採決の結果は、賛成多数をもって認定すべきものと決定しました。

次に、曾我部山林事業特別会計決算は、指摘すべき点はなく、採決の結果は、全員をもって認定すべきものと決定しました。

次に、亀岡財産区ほか29財産区特別会計決算は、関係地域における自治振興のための助成金、山林等の管理に要する財産管理経費等の執行をされたものでありますが、適正に執行されており、採決の結果は、全30財産区特別会計いずれも全員をもって認定すべきものと決定しました。

以上、簡単ではありますが、本分科会の報告といたします。

総務文教分科会

平成27年9月決算特別委員会 事務事業評価結果

番号	事業名	評価	意見等
1	大規模スポーツ施設関連事業経費	継続(改革改善)	<p>京都府との経費負担区分を明確にして、府が負担すべき経費については、その負担を強く求められたい。</p> <p>○国・府・市の連携により、アコモドキの保全を図りながら、これからの亀岡の街づくりや活性化に向けて、事業執行に努められたい。</p>
2	生涯学習推進経費	継続(改革改善)	<p>今後も継続して生涯学習事業を実施していくため、コスト削減等について、コレージュ・ド・カメオカの見直し、類似した事業の統廃合や、相応の受益者負担を求めるなど、多方面から検討されたい。</p> <p>○生涯学習賞については、費用対効果を勘案し、今後の方向性を検討されたい。</p>
3	学校施設管理経費(小学校費・中学校費)	継続(拡充)	<p>亀岡の未来を担う子どもたちのために、当該予算の拡充に向けて、強い決意をもって臨まれたい。</p> <p>○トイレ改修等について早急に進めるとともに、それ以外の細かい修繕についても学校と連携を図りながら、しっかりと対応されたい。</p>
4	情報教育推進経費(小学校費・中学校費)	継続(改革改善)	<p>情報機器の借上に係る契約方法の工夫等により、さらにコスト削減に努められたい。</p> <p>○情報教育に係る教員の指導力向上を図るとともに、情報機器について、授業での効果的な利活用に努められたい。</p>